

加西市歴史文化遺産保存活用地域計画の骨子

保存と活用に関する課題	保存・活用に関する基本方針	保存と活用に関する措置 事業名
<p>課題1 遺産の把握に係る課題</p> <p>①学術調査等による価値付けができていない歴史文化遺産が残されており、継続的な調査が必要とされる。</p> <p>②歴史文化遺産の調査結果情報の一元化が進んでいない。また、火災などに対応するための資料のデジタル化が進んでいない。</p>	<p>方針1-1 調べる</p> <p>歴史文化や歴史文化遺産について継続的な調査を通じて歴史文化遺産の把握を進め、保存・活用の取り組みを後押しする新たな魅力や価値の発見に努める</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 調査計画の作成 2 史料のデジタル化 3 先端技術の活用による調査 4 古地名・故地の記録と復元 5 水場・利水・天下溝等調査 6 『加西市史』の補足調査 7 市民による歴史文化遺産調査の支援体制整備 8 文化財ハザードマップの整備 9 歴史文化遺産データベース化(GIS・レーザー測量・3D等の活用) 10 玉丘古墳群の調査 11 石造物と石の産業史の調査
<p>課題2 価値・魅力の認識に係る課題</p> <p>①歴史文化遺産の価値や魅力が市民に十分に伝わっていない。</p> <p>②歴史文化の保存・活用のための担い手が減少している。</p>	<p>方針1-2 学ぶ</p> <p>市民が歴史文化の担い手であることを認識し、関心を持ち、学び、知識を深め、地域に対する誇りと愛着を育む</p>	<ol style="list-style-type: none"> 12 シンポジウム・講座の開催 13 歴史ウォークの開催 14 石彫ワークショップの開催 15 地域の歴史文化の担い手育成支援体制整備 16 歴史文化学習メニューの作成 17 (仮称) 市民学芸員養成講座の開講
<p>課題3 保存・活用主体に係る課題</p> <p>①保存・活用に係る主体の明確化・主体間の連携が不十分で取り組みの効果が限定的である。</p>	<p>方針1-3 考える</p> <p>歴史文化をまちづくりに活かしながら守り、育み、より豊かな生活環境づくりや地域活力の向上につなげる</p>	<ol style="list-style-type: none"> 18 地域の計画や体制づくり等の支援体制整備 19 地域主体の歴史文化遺産の保存・活用 20 相談窓口の設置 21 多様な主体が参加する協議会の設置
<p>課題4 遺産の環境整備に係る課題</p> <p>①歴史文化遺産の整備・補修・修理・修繕等に係る資金面の負担が大きく、老朽化の進行や魅力づくりの取組みが十分ではない。</p> <p>②指定等を受けていない歴史文化遺産の滅失の危機・防災体制の拡充</p>	<p>方針2-1 整える</p> <p>歴史文化遺産の保存を進めると共に、活用するために必要な環境を整え、歴史文化遺産がもつ魅力のより一層の向上を図る</p>	<ol style="list-style-type: none"> 22 史跡玉丘古墳群の整備 23 史跡公園の整備 24 五百羅漢観光整備事業の推進 25 北条地区の景観形成事業の実施 26 文化財の指定・登録等 27 指定・登録文化財の修繕 28 指定等文化財の解説版の改修・増設 29 歩く文化財パトロール支援 30 (仮称) 「地域の宝」登録制度創設 31 鶉野飛行場跡地及び周辺地域の整備 32 交通ネットワークの検討・整備 33 景観形成等住民協定の締結推進 34 防犯設備の整備 35 防火訓練の実施
<p>課題5 魅力発信に係る課題</p> <p>①加西市の歴史文化の価値や魅力が市の内外に発信されておらず、十分に認識されていない。</p> <p>②歴史文化遺産の収益構造の確立が必要とされている。</p>	<p>方針2-2 発信する</p> <p>歴史文化に関する多様な情報をさまざまなツールを通じて地域内外に広く発信し、歴史文化を活かしたまちづくりの機運向上並びに移住者や観光客の増加につなげる</p>	<ol style="list-style-type: none"> 36 市のホームページの歴史文化情報の拡充 37 スマートホンアプリの利用の拡充 38 先端技術を活用した魅力発信方法の検討 39 出身者・来訪者による魅力発信の仕組みづくり 40 歴史文化遺産ビューポイント活用による魅力発信 41 ふるさと納税充当事業活用による情報発信拡充 42 歴史文化に関する多言語パンフの作成 43 案内板・解説板の多言語化 44 活動団体顕彰制度の創設 45 取組み事例集の作成・発信 46 (仮称) 「子ども観光大使」の認定制度の創設
<p>課題6 活用に係る課題</p> <p>①歴史文化遺産相互のつながりの周知が十分ではなく、活用の効果が限定的である。</p> <p>②歴史文化遺産活用のための主体間・県や近隣との連携が十分ではない。</p>	<p>方針2-3 使いこなす</p> <p>歴史文化遺産相互のつながりや関係する様々な主体・地域のつながりを創出し、良好な生活環境づくり、観光振興、産業振興などの地域活力の向上に向けた活用の効果を最大限発揮する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 47 関連文化財群の周知 48 歴史文化観光メニューの検討 49 関連文化財群のマップづくり 50 庁内関係部局の連携・調整体制の整備 51 近代化遺産ウォーキングルートの整備 52 地区の関連文化財群の検討支援 53 近代遺産施設の活用 54 歴史文化遺産を活かした収益構造の確立 55 県や近隣市町連携による広報展開 56 歴史資料の活用イベント等の企画・開催 57 地域ブランドづくり

目標
◆◆◆
加西らしい歴史文化を活かして、豊かな生活環境をつくり、地域活力を向上する
加西の歴史文化を大切に守り、活かす「加西人」を育てる

方針2 歴史文化の魅力を育む

市民：加西市民及び歴史文化の保存・活用に関心を寄せる出身者
 団体：自治会、協議会、商工会、観光協会、企業、研究機関、ヘリテージマネージャー
 行政：加西市

◎ 主として取組む
 ○ 協力して取組む
 △ 一部を取組む

短期 3年
 中期 5年
 後期 10年

※概ね短期3年の目標値

事業内容	取組主体			事業計画期間			財源	KPI (成果目標値)	
	行政	団体	市民	短期	中期	後期		内容	目標値
歴史文化遺産調査を進めるための調査計画を作成	◎						市費	調査計画	作成
大規模災害に伴う史料遺失に備え古文書のデジタル化を実施	◎		○				市費	実施文書群数	3
G I S ・ レーザー測量 ・ 3 D 等の活用による調査の推進	◎	○						調査実施数	3
古地名や故地の地理情報を記録、かつての加西の景観復元に活用	○	◎	△				市費・市補・団体	-	-
水場・利水・天下溝の調査で交流の場、聖地の記憶の記録化	○	◎	△				市費・市補・団体	-	-
村堂・小祠等の小型近世建造物及び古文書・出土品・収蔵物の調査	◎	○	○				市補・団体	-	-
地域住民による地域の歴史研究を支援し、地域史を編纂	◎	◎	○				市補・団体	-	-
市の防災地図を参照した文化財防災計画の検討	◎	○	○				市費	-	-
調査した歴史文化遺産のデータベースの作成・情報の一元化	◎	△	△				市費	-	-
史跡整備に並行して必要な調査の実施	◎	△	○				文補	-	-
近世・近代の石仏、道標調査、石工周辺情報検証による産業史調査	◎	○	△				市費・市補・団体	-	-
市民が歴史文化遺産の魅力を理解できるよう取り組みを実施	◎	○	○				市費・市補・文補・団体	開催回数	3回
歴史文化遺産を歩くことで立地や景観も含め体感する機会を提供	○	◎	○				市費・市補・団体	開催回数	3回
石工の伝統工芸を学び北条石仏等石造物の魅力を発信	○	◎	○				市費	開催回数	3回
観光ガイド育成など次世代の歴史文化の担い手育成、支援	○	◎	○				市費・市補・文補	受講者数	15人
小中学校向けの歴史文化に関するメニューの作成	◎	○	○				市費	-	-
地域の歴史文化のリーダー的人材の育成を目的とした講座開催	◎	○	○				市費・文補	-	-
専門家の派遣など地域における計画づくりへの支援を実施	◎	○	△				市費	計画策定数	1地区
まちづくりに取り組む団体による歴史文化遺産の保存・活用	○	◎	○				市費・市補・文補・地推交・団体	保存活用件数	1件
歴史文化保存・活用のための市民向け相談窓口の設置	◎	○	△				市費	-	-
歴史文化に関わる主体が集い、話し合える場を設置	◎	○	△				市費	-	-
史跡玉丘古墳群の継続的整備	◎	○	○				市費・文補	整備計画	見直し
史跡公園を市民のいこいの場として拠点化整備	◎						市費	施設の修繕	完了
羅漢石仏の保護と観光拠点化の推進	○	◎	△				県補・その他補	来館者数	1万人
道路美装化などの景観形成事業の実施	◎	○	△				市費・県補・土補	事業数	3件
新たな指定・登録の推進	◎	○	○				市費・市補・団体	新指定・登録	9件
老朽化した指定・登録文化財の修繕及び美装化を実施	◎	◎					市補・文補・地推交・県補	修繕件数	3件
老朽化した解説板の改修、新たな文化財の説明板増設	◎	○	△				市費	改修・増設	9件
市民が歩きながら文化財防犯を進めるルートマップ作成	○	○	◎				市費	ルート作成件数	1件
未指定の文化財の保存・活用のための市独自の制度を創設	○	◎	○				市費	-	-
鶉野飛行場跡地・地域活性化拠点施設の整備	◎	○	△				市費・地推交	-	-
北条鉄道、路線バス、コミバス、自転車等のネットワーク化	○	◎	△				市費・団体・土補	-	-
県条例に基づく景観形成重要建造物の指定等の推進	○	◎	◎				市費・県補・団体	-	-
監視カメラ等の設置の推進	○	◎	△				市費・市補	-	-
火災等に対応できるような防火訓練の実施	○	◎	◎				市補・県補	-	-
市のホームページのリニューアルによる歴史文化遺産の魅力発信	◎	○	△				市費	情報発信回数	10%増
加西ナビの機能およびコンテンツの拡充	◎						市費・地推交		
AR (拡張現実)、VR (仮想現実) ドローン空撮等の活用	◎	◎	○				市費・文補・地推交		
SNS等を活用した魅力発信の仕組みづくり	○	◎	◎				市費		
歴史文化遺産の全景やインスタ映えポイントの設定	◎	◎					市費・県補・県民補	設定数	3箇所
歴史文化遺産へのふるさと納税事業充当の拡充	◎						市費	充当代数	3件
加西市の特徴的な歴史文化を紹介する多言語パンフの作成	◎	◎	○				市費・文補・地推交	パンフ作成	作成
指定文化財等の案内板等の多言語化推進	◎	◎	○				市費・文補	-	-
歴史文化保存・活用団体への顕彰制度の創設・運用	◎	◎	○				市費	-	-
市民向けの歴史文化保存・活用の事例集を作成・発信・活用	◎	◎	○				市費	-	-
子どもたちの観光ガイドの取り組みへの認定制度の創設	◎	◎	○				市費	-	-
パンフレット、広報誌等による関連文化財群の周知	◎	○	○				市費・団体	認知度	60%
歴史文化を活用した着地型観光メニューの企画・推進	○	◎	○				市費	企画・開催数	3回
「播磨国風土記」をテーマとしたドライビングルート・標識の拡充	○	◎	△				市費・団体	標識設置	3件
歴史文化遺産を活用した各種事業の連携・調整の推進	◎	○	△				市費・県補	連携事業数	1件
奉天池から飯盛野疏水沿いの近代化遺産をめぐるルート整備	○	◎					国補・県補	ルート整備	開始
市民による関連文化財群の検討支援	○	◎	◎				市補・団体	-	-
青野原原簿収容所跡、鶉野飛行場遺構群の活用	◎	◎	○				市費・地推交・県補	-	-
歴史文化遺産を活かした所有者や周辺での収益確保の取り組み推進	◎	○	○				市費・市補・団体	-	-
石の文化、播磨国風土記、西国巡礼等特定テーマの広域連携の推進	◎	◎	△				市費・県費	-	-
歴史資料を活用した展示会等の企画・開催	◎	◎	△				市費・市補・経補	-	-
歴史文化を活用した加西市地域ブランドの企画・事業化	○	◎	◎				市費・県補	-	-

鶉野地区

課題	方針	保存と活用に関する措置		
		事業名		
課題1 調査・研究に係る課題 各家庭に眠っている写真や道具などの歴史文化遺産の消失の防止 姫路海軍航空隊基地及び川西航空機械会社鶉野工場の学術的価値の解明 戦時中の姫路海軍航空隊基地建設にまつわる歴史の調査・解明 海外及び外国語の資料の収集と研究 調査成果及び把握済みの歴史文化遺産の一元化	③ ② ① 同加日地鶉 様西常域野 の市利住飛 テの用民行 ー歴をが場 マ史想受を で文定け中 ま化し継心 ち・たいに づ観心で戦 く光地き争 り・よたに に地い歴ま 取域空史つ り活間文わ 組性を化る む化整を貴 の備継重 地抛す承な 域点するす 歴史としこ のしと。文 化遺産を 一ととして 整備・発信 し、 推進すると ともに、 訪問客との 交流を推進 する。	方針1-1 調べる		
		各家庭に眠っている歴史文化遺産が消失しないよう呼びかけ、歴史文化遺産の収集を進める。	A-1	鶉野飛行場跡群・関連遺産の調査の継続
		民官学の連携による歴史文化遺産の調査を進め学術的価値を明らかにする。		
		鶉野区域にある歴史文化遺産をデジタルアーカイブし、人々が気軽に閲覧できるようにする。		
課題2 価値・魅力の認識に係る課題 地域住民の歴史文化遺産に対する認知度・理解度の向上 保存・継承の担い手の育成		方針1-2 学ぶ		
		地域住民向けのツアーやワークショップを開催するなどして、地域の歴史文化遺産に関する認知度・理解度の向上及び地域アイデンティティの醸成を促す。	A-3	近代戦争遺跡ツアーの企画・開催
			A-4	展示会の開催
		現在、鶉野平和祈念の碑苑保存会が実施しているガイド養成講座を継続して開催できるよう、行政による支援も検討し、特に若年層における保存・継承の担い手を増やす。	A-5	地域の歴史文化の担い手育成支援体制整備
		民間団体によって既に作成されたパンフレット等を有効活用しながら独自の平和学習メニューの検討を進める	A-6	平和学習メニュー作成
課題3 保存・活用主体に係る課題 鶉野平和祈念の碑苑保存会をはじめとする地域住民と行政とのより一層の連携強化 他地域と連携したテーマ別観光を進めるための体制整備		方針1-3 考える		
		多様な主体が参加して話し合える場を作るため、協議会を設置する。	A-7	多様な主体が参加する協議会部会等の設置
		平和ツーリズムを進めるため同様のテーマでまちづくりに取り組む他地域と連携し、交流人口と域内消費の拡大を目指す。	A-8	空がつなぐまち・ひとつくり交流事業
課題4 遺産の環境整備に係る課題 未利用地の活用の推進 遺産の公開に向けた整備、活用遺構の安全管理 遺跡へのアクセスの明確化		方針2-1 整える		
		地域住民と観光客の交流を促すため心地よい公園空間を整備するなど、未利用地の有効活用を推進する。また、訪問客が不便なく過ごせるようにトイレや休憩所、駐車場などの充実を図る。	A-9	鶉野飛行場跡地及び周辺地域の拠点化整備
		滑走路をはじめとする歴史文化遺産の文化財への登録等に向けた取り組みを進め、適切に保存・活用が行えるようにする。	A-10	近代戦争遺跡に関する遺産の登録文化財への推進
		区域内の歴史文化遺産を訪問客が安全に見学できるように整備を進める	A-11	青野原俘虜収容所待校用風呂棟の整備
		後世に伝える資料として調査・研究の成果をまとめる	A-12	地域史の作成
		レンタサイクルやバスの整備を進め、鉄道・バス・自転車等による交通ネットワークの検討を行う。	A-13	交通ネットワークの検討・整備
課題5 魅力発信に係る課題 情報を一元的に把握できるようなWEBサイトの整備 加西市の観光拠点としての認知度向上に向けたPR	方針2-2 発信する			
	行政・民間団体・大学など関連する機関による取り組みを一元的に把握出来るWEBサイトを作ることを検討し、問い合わせ先の明確化・活動情報の集約などを行うことで効率的に魅力を発信する	A-14	多言語WEBサイトの開設	
課題6 活用に係る課題 来訪者が楽しみながら学べる着地型観光のモデルづくり 第一次・第二次世界大戦に関する歴史文化遺産の新たな活用方法の創出	方針2-3 使いこなす			
	歴史文化遺産を巡るモデルルートを設定し、ガイドマップを作成する	A-15	近代戦争遺跡巡りガイドマップ作成事業	
	滑走路や防空壕の特性を生かして、地域イベント等の会場として活用する	A-16	近代戦争遺跡を活用した事業・イベントの開催	
	大戦の記憶の継承のため、実際の解体部材を用いた収容棟の復元を地域住民の手で行い、完成後の建物の建物を効果的に活用する	A-17	収容棟の復元事業	
	俘虜に関する作品や資料等を活用して展示会を開催する。捕虜の収容所内での音楽や文化活動を復元する。	A-18	歴史資料の活用イベント等の企画・開催	

←サテライトでの事業

全体事業	事業概要 (No.は全体事業)	取組主体			事業計画期間					財源	KPI(成果目標値)		
		行政	団体	市民	1年目	2年目	3年目	4・5年目	6～10年		内容	目標値	
-	個人所蔵の歴史文化遺産なども含め、収集を進める。官民連携による調査・研究を継続して進め、鶴野飛行場跡等の学術的価値を明らかにする	◎	◎	○							市・団体	調査件数	2件/年
2	調査で明らかになった歴史文化遺産をデータベース化し、Web上で公開する	◎	○	△							市	—	—
-	歴史文化遺産を巡るツアーを開催する	◎	◎	○							市・文化庁	開催数	3回/年
12	市内や他都市で平和学習のための展示会を開催する	◎	◎	○							市・文化庁・団体	開催数	1回/年
15	鶴野平和祈念の碑苑保存会が実施しているガイド養成講座等の継続実施に向けた支援を行う	○	◎	○							市・文化庁・団体	講座開催数	3回/年
16	歴史文化遺産を活用した、小中学生向け平和学習メニューを作成する	◎	○	○							市	—	—
21	鶴野区域歴史文化遺産保存活用部会の設置を進める	◎	○	△							市費	—	—
-	「空がつなぐまち・ひとづくり推進協議会」で他地域と連携した事業を進める	◎	○								市・地推交	協議会開催	1回/年
31	地域活性化拠点施設を整備する	◎	○	△							市・地推交	地域活性化拠点施設	開館
26	近代戦争遺跡の文化財登録を目指す	◎	○	○							市・県	申請件数	3件
27	見学に対応できるよう、青野原俘虜収容所将校用風呂棟(県登録文化財)の整備を進める	◎	△	△							市・文化庁	—	—
-	『鶴野飛行場史』の編さんを進める	◎	◎	○							市・文化庁・CF	—	—
32	北条鉄道、路線バス、自転車等のネットワーク化	○	◎	△							市・国交省	—	—
-	国内旅行者・インバウンドの両方に対応した、観光情報などを一元的に把握できるWEBサイトを立ち上げる。	◎	○								市	WEBサイトの立上げ	多言語対応
49	主要地点からのアクセスも明記したガイドマップを作成する	◎	△								市	配布部数	100部/年
52	滑走路や巨大防空壕を映画上映会や演奏会等のイベントに活用する	◎	○	○							市・県・地推交	開催件数	1回/年
52	市が保管する解体部材を用いて収容棟の復元を行い、復元建物の活用を図る	○	◎	◎							市・県・地推交	—	—
55	捕虜製作品展覧会を開催する	○	◎	○							市・文化庁	開催件数	2回/年

↑
数字は、関連する全体の事業番号
網掛は全体事業と同一のもの

北条地区

課題	方針	保存と活用に関する措置	
		事業名	
課題1 調査・研究に係る課題	② 歴史文化の遺産中心を地適と切して守り多様受継力をためるの発信しを講多めるのこ人々でよ来り訪を促魅力滞な在もの歴史として観光育の拠点化を目指す。 ① 北条住民が誇りに愛着を継がれてきた石仏や建造物に磨きをかけて、その価値を共有することにより、	方針1-1 調べる	
北条の宿の価値づけと、町並みの復元		B-1	北条の町並みのデータベース化
歴史文化遺産の既存の調査成果の一元化と、情報の学術的精度の向上		B-2	石の文化の研究
		B-3	石仏・石造物の3Dデータ化
課題2 価値・魅力の認識に係る課題		方針1-2 学ぶ	
地域住民の歴史文化遺産に対する認知・理解を深める		B-4	市民講座・歴史ウォーク等の継続実施
		B-5	歴史文化遺産を対象とした防災訓練の実施
		B-6	石彫ワークショップの開催
		B-7	文化財保存団体の後継者育成
歴史文化遺産の担い手育成		B-8	観光ガイドの育成
		B-9	歴史文化学習メニュー作成
課題3 保存・活用主体に係る課題		方針1-3 考える	
地域住民による主体的な保存・活用に向けた相談体制の整備		B-10	保存活用のための相談窓口の整備・周知
主体間の連携体制の構築		B-11	多様な主体が参加する部会等の設置
課題4 遺産の環境整備に係る課題		方針2-1 整える	
空家となっている歴史的建造物の消失防止		B-12	空き家の活用
歴史的建造物の修理・修景		B-13	歴史的建造物の文化財指定等の推進
歴史文化遺産の魅力向上		B-14	北条地区景観形成事業の実施
		B-15	五百羅漢観光整備事業の推進
		B-16	長石採石場の環境整備
災害に対する脆弱性への対策	B-17	防火対策の実施	
遺産へのアクセスの明確化	B-18	古法華石仏へのアクセスの明確化	
課題5 魅力発信に係る課題	方針2-2 発信する		
多様なストーリーの重なる北条地区の魅力および個々の歴史文化遺産に関する情報発信	B-19	資料・調査成果のWEBでの公開	
各団体が個々に実施しているイベントなどの効率的な情報発信	B-20	情報サイトの整備	
多様性のある情報発信	B-21	解説板の整備	
課題6 活用に係る課題	方針2-3 使いこなす		
区域内およびサテライトに点在する歴史文化遺産をつなぎ合わせた線・面としての活用	B-22	観光ガイドマップの更新	
	B-23	拠点施設への支援	
滞在型観光の普及など北条区域の新たな魅力の創出	B-24	まちなかイベントの継続開催	
	B-25	宿泊施設との連携企画	

←サテライトでの事業

全体事業	事業概要	取組主体			事業計画期間						財源	KPI(成果目標値)	
		行政	団体	市民	1年目	2年目	3年目	4・5年目	6～10年	内容		目標値	
6, 9	北条区域の歴史的建造物の調査および、史料や聞き取りにより、失われた施設や風俗を記録する	◎	○	○							市・文化庁	調査件数	10件
11	石仏、道標等調査、石工の周辺情報の検証によって石の文化を解明する	◎	◎	△							市・文化庁	-	-
9	加西市にのこる石仏や石造物を3Dデータ化し、複製品製作等に役立てるとともに、万一の滅失に備える	◎	△	△							市	-	-
12, 13	石の文化や道が育む文化等をテーマとした市民講座・歴史ウォーク等を開催する	◎	◎	○							市・県・文化庁・団体	開催数	3回/年
-	実際にまちを歩き歴史文化遺産の位置を確認したり、住民参加による防火訓練を実施する	◎	○	◎							市	訓練実施	1回/年
14	石工の伝統工芸を学び、北条石仏等石造物の魅力を発信する	○	◎	○							市	開催数	1回/年
15	五百羅漢保存委員会により継続的に後継者を育成する	○	◎	○							市・団体・文化庁	会員数の維持	100%
17	地域の歴史文化を語ることのできるガイド育成を進める	◎	◎	○							市・団体・文化庁	ガイド出動回数	10日/年
16	小中学校向けの歴史文化に関するメニューを作成し、実際に出張授業を行う	◎	○	○							市	-	-
20	市民による歴史文化の保存・活用を推進するための相談窓口を整備し、周知する	◎	○	△							市	-	-
21	北条地区の歴史文化に関わる主体が集い、話し合える場を設置する	◎	○	△							団体	-	-
-	北条旧市街地の空き家の活用を推進する	◎	○	◎							市・CF	-	-
26, 34	円滑に保存・活用が進められるよう、指定等文化財への指定・登録、景観重要建造物への指定に向けた取り組みを進める	◎	○	○							市・県・団体	建造物指定・登録件数	3件
25	地区内の建造物に対する修景・修理および道路美装化等を進める	◎	○	△							市・県・国交省	道路美装化路線数	2路線
24	羅漢石仏の保護と観光拠点化を並行して進める	○	◎	△							市・県・団体	来館者数	1万人/年
-	長石採石場を眺望できる視点場等の環境整備を進める	◎	○	△							市	-	-
35	万一の火災に備え、消火器具の設置等を推進する	◎	○	◎							市・県	-	-
-	古法華寺に安置されている古法華石仏までのアクセスを明確にするため、サイン等の整備を進める	◎	○	△							市	-	-
36	これまでの歴史文化に関わる調査の結果や資料をWEB上で公開する	◎	○	△							市	-	-
-	北条区域における市民や民間団体の取り組みを一元的に把握できる情報WEBサイトを作成する	○	◎	△							市	-	-
43	多言語webサイトにつながるQRコード等を配した解説板を整備する	◎	○								市・文化庁	-	-
49	旧街道や鉄道を軸として歴史文化ストーリーに着目した観光ルートを作成し、ガイドマップに反映する	◎		○							市・団体	-	-
-	改修によって賑わいの拠点となっている水田家住宅・高井家住宅等の活動支援、整備検討を行う	◎	○	△							市・文化庁・CF	-	-
-	北条の町並みを舞台に現在開催されているマルシェ等のイベントを継続的に開催し、人々の誘致に役立てる	○	◎	◎							市・団体	イベント開催回数	1回/月
-	区内の宿泊施設と連携し、観光プログラムと宿泊をセットにした滞在スタイルを来訪者に提供する	○	◎	△							団体	-	-

↑
数字は、関連する全体の事業番号
網掛は全体事業と同一のもの

玉丘地区

課題	方針	保存と活用に関する措置		
		事業名		
課題1 調査・研究に係る課題	<p>④ ③② ① 市一案墳そ区域つ内丘れ域全のサのぞ全体大イ棄れ体にきん墳ので広なや防古風が博解止墳土の物語をの記歴史館第持口史のを一つマン文よ設に価ン化う置考値をスにしえや感ト整て、関じ備、各係られりし各主性れり、古体をるこ墳間明よう天れへでらう国まの協かに、播でアカに、磨あくししとませな、風リスが群土認方らし記知法見して『さ』を学のれ明ルの発て確し価値信い化ト値拠なすのを点の整高めな墳とをるへも着よ人々に区を区行区域誘域うの致全。整す体備を進めをる。</p>	方針1-1 調べる		
玉丘古墳群の内容把握と価値の分析		『播磨国風土記』や玉丘古墳群の継続的な調査・研究を進め、学術的な価値を明らかにする	C-1	『播磨国風土記』や玉丘古墳群の継続的な調査研究
歴史文化遺産の既存成果の一元化と、情報の学術的精度の向上		歴史文化遺産や資料のデジタル化を推進する	C-2	遺跡地図のデジタル化
課題2 価値・魅力の認識に係る課題		方針1-2 学ぶ		
市民の歴史文化に対する理解度・関心度の向上		市民を対象としたまちあるきや勉強会等を開催し、市民の歴史文化遺産への関心度・理解度を高める	C-3	講座・まちあるき等の開催
			C-4	ものづくり体験の開催
		食育を通して「播磨国風土記」に関する歴史文化を伝える取り組みを行う	C-5	播磨国風土記をテーマとした食育の推進
		観光ガイド講座を開催するなど次世代の歴史文化遺産の担い手の育成を進める	C-6	インタープリター育成事業
歴史文化遺産の保存・活用の担い手の育成		遺跡の歴史学習利用を促進するため、学習カリキュラムや教材の開発を進める	C-7	歴史学習メニュー作成
課題3 保存・活用主体に係る課題		方針1-3 考える		
地域住民、NPOやボランティアと行政の連携体制の構築		多様な主体が参加して話し合える場を作るため、協議会部会を設置する	C-8	多様な主体が参加する協議会部会の設置
課題4 遺産の環境整備に係る課題		方針2-1 整える		
墳丘上樹木の根茎成長や見学による墳丘毀損の防止		樹木の成長や見学による墳丘毀損を防ぐため、樹木の伐採や、見学ルートの整備等を実施する。	C-9	樹木の伐採
来訪者に魅力の伝わる古墳の整備		古墳周辺の市街地や史跡公園内の景観性を向上させる	C-10	史跡公園の整備
		来訪者が、視覚的に古墳と理解できる遺構修復を図る。	C-11	玉丘古墳・マンジュウ古墳の整備
玉丘史跡公園以外の古墳および市内の播磨国風土記遺称地へも来訪者を誘導できるようなアクセスの整備		史跡公園以外へも誘導できるようにアクセス経路を明確化し、サインや解説板の設置を行い、区域全体を野外博物館のように整備し回遊性を高める。	C-12	古墳群を巡る観光ルートの設定
			C-13	案内板・解説板の設置
		市内の観光拠点を起点に、点在する古墳群を巡る交通ネットワークの検討を行う	C-14	交通ネットワークの検討・整備
課題5 魅力発信に係る課題		方針2-2 発信する		
加西市内外へのこまめな情報・魅力の発信	ホームページの玉丘古墳群のコンテンツを拡充する	C-15	コンテンツの拡充	
課題6 活用に係る課題	方針2-3 使いこなす			
消滅した古墳も含めた群としての価値を高める	消滅した古墳も含めた玉丘古墳群のマップを作成する	C-16	玉丘古墳群ガイドマップ作成	
来訪者からのフィードバックを得る仕組みの確立	来訪者を対象としたアンケートを継続実施し、来訪者の意見を今後の整備計画に活かす	C-17	来訪者アンケートの継続実施	
史跡公園指定管理者による史跡公園の活用	史跡公園などを中心にイベント会場などとして積極的に活用する	C-18	古墳(史跡公園など)を会場としたイベントの実施	
来訪者が玉丘古墳群に楽しく触れる機会の創出	AR(拡張現実)やVR(仮想現実)、映像コンテンツなどを活用し、来訪者が楽しみながら学べる機会を作る	C-19	ARコンテンツ・アプリの作成	
市内に点在する風土記遺称地の玉丘古墳群を中心としたネットワーク化	関連文化財群「大国播磨と風土記」を活かした観光ドライブルートを整備する	C-20	関連文化財群の観光ルート・マップづくり	
旧賀毛郡や播磨国の範囲での広域連携による歴史文化遺産の活用				

←サテライトでの事業

全体事業	事業概要 (No.は全体事業)	取組主体			事業計画期間					財源	KPI(成果目標値)	
		行政	団体	市民	1年目	2年目	3年目	4・5年目	6～10年		内容	目標値
10	最新の調査成果や研究発表を基に、歴史的価値の再評価、再検討を行う。	○	◎							市・文化庁	—	—
9	遺跡地図と歴史文化遺産のデータベースを連動させて表示できるようにデジタル化する	◎	△	△						市	—	—
12, 13	玉丘区域の歴史文化に関する講座・まちあるき等を実施する	◎	◎	○						市・県・文化庁・団体	講座等の開催	1回/年
-	勾玉つくりや平窯を使った焼き物体験など、古代にちなんだものづくり体験を行う。	○	◎	○						団体・文化庁	—	—
-	鴨や筍を使った料理、米つきや酒づくり体験など、風土記を題材とした料理体験を行う	◎	△	◎						市・団体・文化庁	—	—
15	玉丘の歴史文化を語ることのできるガイドの育成などを実施する。	○	◎	○						市・団体・文化庁	育成数	3人
16	小中学生向けの玉丘区域の歴史文化に関するメニューを作成する	◎	○	○						市	—	—
21	玉丘歴史文化遺産保存活用区域部会を設置・運営する	◎	○	△						市	—	—
22	樹木の根茎成長による填丘毀損や、景観性の向上のため樹木の伐採を行う	◎	○	○						市・文化庁	樹木の維持管理	1回/年
23	史跡公園を市民のいこいの場として拠点化工事を実施する	◎								市	景観整備	景観向上
22	史跡玉丘古墳群の整備を進める	◎								市・文化庁	古墳整備	整備
22	史跡公園外へも来訪者を誘導するため、玉丘古墳群全体を巡る観光ルートを設定する。	◎		△						市・文化庁	観光ルート	ルート設定
22	各古墳や経路上に案内板や解説板を設置する。	◎		△						市・文化庁	—	—
32	北条鉄道や路線バス、自転車の交通ネットワークの形成を進める	○	◎	△						市・団体・国交省	—	—
36	玉丘古墳群のデータを活用したコンテンツを拡充する	◎	◎							市	HP更新回数	5回
-	群としての認知度の向上、モデルルートづくりを目的として、消滅した古墳も含めて玉丘古墳群のマップを作成する	◎	○							市	—	—
-	現在行っている来訪者アンケートを継続実施する	◎								市	回収数	100件/年
-	各古墳でそれぞれ工夫を凝らしたイベントを実施し、人々が古墳群を訪れるきっかけをつくる	○	◎	◎						市・団体	イベント開催	3件/年
-	来訪者が楽しみながら学べるよう、ARを使ったアプリの作成を推進する	◎								市・文化庁	—	—
49	「播磨国風土記」をテーマとしたドライブルートの設定、標識の拡充	◎	○							市・団体	—	—

↑

数字は、関連する全体の事業番号
網掛は全体事業と同一のもの